

テセントリク

テセントリクによる治療を受けられる
患者さんへ

テセントリク ハンドブック

はじめに

従来からの治療法である手術や放射線療法、薬物療法など、がんを直接治療する方法だけでなく、患者さん自身の免疫力を利用しがんを治療する‘がん免疫療法’も、がん治療の選択肢となりました。

テセントリクはがん免疫療法に使われる薬剤の中でも抗PD-L1抗体ピーディーエルワンとよばれ、いままでの細胞障害性抗がん剤や分子標的抗がん剤のようながん治療薬とは異なるメカニズムで作用するお薬です。

このハンドブックでは、テセントリクによる治療を受ける方を対象に、テセントリクの作用、投与方法、副作用や、治療中の生活で注意していただきたい点を解説しています。

治療を始めるにあたり、不安に思うこと、分からないことがありましたら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

目次

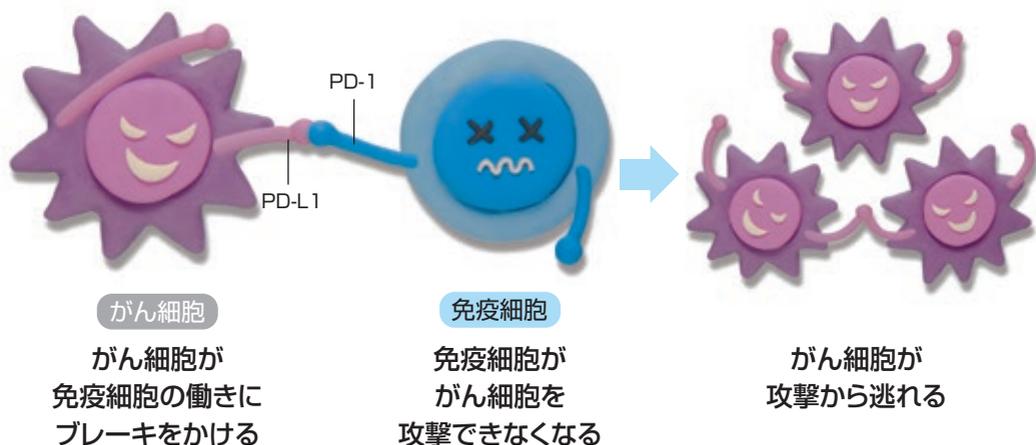
テセントリクの作用は？	6
テセントリク治療前に確認することは？	8
テセントリクの投与方法は？	9
テセントリクの副作用は？	10
テセントリクの注意を要する副作用	11
間質性肺疾患	14
肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎	15
大腸炎、重度の下痢	15
膵炎	16
1型糖尿病	16
甲状腺機能障害	17
副腎機能障害	17
下垂体機能障害	18
脳炎、髄膜炎、脊髄炎	18
神経障害	19
重症筋無力症	19
重度の皮膚障害	20
腎機能障害	20
筋炎、横紋筋融解症	21
心筋炎	21
血球貪食症候群	22
薬剤の注入に伴う反応	23
発熱性好中球減少症	23
参考:注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状	24
副作用の重症化を防ぐために	28
治療期間終了後の注意点	30
緊急受診する場合の注意点	31
日常生活での注意点	33
治療中の妊娠と授乳について	34

テセントリク的作用は？

私たちの体の中では、免疫細胞が、がん細胞などの異常な細胞を異物（自分以外のもの）として攻撃、排除し、健康を保っています。

しかし、がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、その攻撃から逃れることが分かってきました。

がん細胞は、免疫細胞の働きにブレーキをかけるしくみの1つとして、がん細胞の表面に「PD-L1」という物質を出します。このPD-L1が、がん細胞を攻撃する免疫細胞の表面にある「PD-1」という物質^{ピーディーワン}に結合すると、免疫細胞の働きにブレーキがかかり、免疫細胞はがん細胞を攻撃できなくなってしまいます。



テセントリクは、抗PD-L1抗体とよばれるお薬です。
テセントリクはがん細胞の表面に出たPD-L1に結合することで、がん細胞から免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにします。
この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃することができるようになります。



がん細胞

テセントリク

免疫細胞

免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにする

がん細胞への攻撃力を取り戻す



がん細胞が攻撃される

テセントリク治療前に確認することは？

以下にあてはまる方は、
治療を受ける前に医師にお知らせください。

- 以前にテセントリクに対して、強いアレルギー症状が出たことのある方

→テセントリクによる治療を受けることができません。

- 自己免疫疾患のある方、または慢性的もしくは再発性の自己免疫疾患にかかったことのある方

→テセントリクを投与すると自己免疫疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。

自己免疫疾患: 免疫細胞が、体を構成している正常な細胞を攻撃してしまう病気(関節リウマチ、乾癬、シェーグレン症候群など)

- 間質性肺疾患のある方、または間質性肺疾患にかかったことのある方

→テセントリクを投与すると間質性肺疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。

間質性肺疾患: 肺胞(空気中の酸素を血液に取り込む器官)の壁やその周辺に、炎症が起こる病気

テセントリクの投与方法は？

▶ 点滴により30～60分間で投与します

テセントリクは点滴で投与します。1回目の点滴は60分間かけて行われ、その際に特に副作用がみられなければ、2回目以降の点滴は30分間で行うことができます。



▶ テセントリクには、2週間ごとに投与する方法と、3週間ごとに投与する方法があります

テセントリクは、がん種によって投与方法が異なります。テセントリクを2週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約13日間お休み(休薬)するという治療サイクルを繰り返します。テセントリクを3週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約20日間お休み(休薬)するという治療サイクルを繰り返します。非小細胞肺癌の術後補助療法の場合は、12ヵ月間まで投与を繰り返します。

テセントリクの副作用は？

テセントリクは免疫細胞を元気にして、がん細胞を攻撃する治療法であるため、免疫細胞の働きが強くなりすぎることによる副作用が起こる可能性があります。

副作用はすべての患者さんに起こるとは限らず、その症状の強さも人それぞれですが、治療が始まる前にどのような副作用が起こる可能性があるのかを知っておき、副作用と思われる症状があらわれた場合は、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

テセントリクの治療期間中だけでなく、治療が終わった後にも副作用があらわれることがありますのでご注意ください。

テセントリクの注意を要する副作用

- 間質性肺疾患
- 肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎こうかせいたんかんえん
- 大腸炎、重度の下痢
- 睪炎すいえん
- 1型糖尿病
- 甲状腺機能障害こうじょうせんきのうしょうがい
- 副腎機能障害ふくじんきのうしょうがい
- 下垂体機能障害かすいたいきのうしょうがい
- 脳炎、髄膜炎、脊髄炎ずいまくえん せきずいえん
- 神経障害
- 重症筋無力症じゅうしょうきんむりよくしょう
- 重度の皮膚障害
- 腎機能障害
- 筋炎、横紋筋融解症おうもんきんゆうかいしょう
- 心筋炎
- 血球貪食症候群けっきゅうどんしょくしょうこうぐん
- 薬剤の注入に伴う反応
- 発熱性好中球減少症*

※テセントリクと他のお薬(アバスチン+パクリタキセル+カルボプラチン)を一緒に使った場合にあらわれることがあります。

テセントリクの注意を要する副作用

Ⓢ 甲状腺

こうじょうせん

こうじょうせんきのうしょうがい
甲状腺機能障害……………P.17

Ⓢ 心臓

心筋炎……………P.21

Ⓢ 肺

間質性肺疾患……………P.14

Ⓢ 肝臓

肝機能障害、肝炎、
こうかせいたんかんえん
硬化性胆管炎……………P.15

Ⓢ 副腎

ふくじん

ふくじんきのうしょうがい
副腎機能障害……………P.17

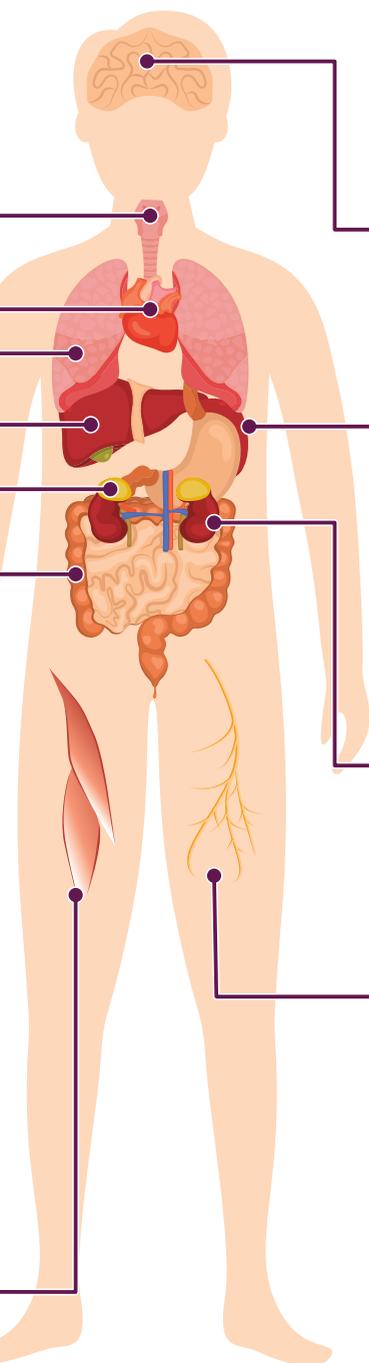
Ⓢ 消化管

大腸炎、重度の下痢……………P.15

Ⓢ 筋肉

じゅうしょうきんむりよくしょう
重症筋無力症……………P.19

おうもんきんゆうかいしょう
筋炎、横紋筋融解症……………P.21



▶ 脳

かすいたいきのうしょうがい
下垂体機能障害……………P.18
ずいまくえん せきずいえん
脳炎、髄膜炎、脊髄炎……………P.18

▶ 膵臓

すいぞう
膵炎……………P.16
すいえん
1型糖尿病……………P.16

▶ 腎臓

腎機能障害……………P.20

▶ 神経

神経障害……………P.19

▶ その他

重度の皮膚障害……………P.20
けつきゅうどんしよくしょうこうぐん
血球貪食症候群……………P.22
薬剤の注入に伴う反応……………P.23
発熱性好中球減少症*……………P.23

※テセントリクと他のお薬(アバスチン+パクリタキセル+カルボプラチン)を一緒に使った場合にあらわれることがあります。

テセントリクの注意を要する副作用

副作用は、テセントリクによる治療期間中だけでなく、治療が終わった後にもあらわれることがあります。注意が必要な副作用について、主な症状をご紹介します。早期に発見し、適切に対処することが大切です。気になる症状がみられた場合は我慢せず、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

▶ 間質性肺疾患

肺胞（空気中の酸素を血液に取り込む器官）の壁やその周辺に、炎症が起こる病気です。肺胞やその周辺に炎症が起こると血液に酸素が取り込めず、呼吸が苦しくなります。

間質性肺疾患は重症化した場合、命にかかわることもありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 息切れ、息苦しい
- 咳が出る
- 発熱



MEMO

▶ 肝機能障害、^{こうかせいたんかんえん}肝炎、硬化性胆管炎

肝臓の機能が低下したり、肝臓や胆管に炎症が起こる病気です。血液検査では肝機能検査値 (AST、ALT、ALP、 γ -GTP、ビリルビンなど) が高くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 体がだるい
- 発熱
- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- 白目や皮膚が黄色くなる、尿が赤色になる
- かゆみ
- 腹痛



▶ 大腸炎、重度の下痢

大腸の炎症や、それによる重度の下痢が起こることがあります。下痢を放置すると、脱水症状を起こすため、水分を多めにとるなどの注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようにになっている、便に血が混じる
- 腹痛



テセントリクの注意を要する副作用

▶ すいえん 膵炎

膵臓に炎症が起こる病気です。血液検査ではアミラーゼの増加やリパーゼの増加がみられます。お腹の痛みはのけぞると強くなり、かがむと弱くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- お腹の上部の痛み
- 背中での痛み
- 吐き気、嘔吐

▶ 1型糖尿病

膵臓からインスリンが分泌されなくなり、糖尿病を発症することがあります。インスリン注射による治療が必要になることもあります。急速に1型糖尿病が進行する場合があります、意識障害や、その前兆として吐き気や嘔吐があらわれることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 口が渇く
- たくさんの水分が欲しくなる
(水分をとってもすぐにのどが渇く)
- 尿の量や回数が増える
- 疲れやすい
- 体重が減る
- 吐き気、嘔吐
- 腹痛
- 意識がはっきりしない

MEMO

こうじょうせんきのうしょうがい

▶ 甲状腺機能障害

甲状腺に炎症が起こり、甲状腺ホルモンが過剰になる、または低下する病気です。甲状腺ホルモンが過剰になった後、低下する場合がありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

<甲状腺ホルモンが過剰になることであられる症状>

- 動悸
- 暑がり、汗を多くかく
- 発熱
- ふるえ
- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようにになっている
- 体重が減る
- 体がだるい

<甲状腺ホルモンが低下することであられる症状>

- 体がだるい
- 脈が遅くなる
- 食欲がない
- 体重が増える
- 便秘

ふくじんきのうしょうがい

▶ 副腎機能障害

副腎の機能が低下する病気です。血液中の副腎皮質刺激ホルモン、コルチゾールなどの測定を行い、診断します。

次のような症状がみられる場合があります。

- 気力の低下
- 血圧の低下
- 疲れやすい
- 腹痛
- 体重が減る
- いつもより排便回数が多い
- 食欲がない
- 便が泥状か水のようにになっている
- 吐き気、嘔吐

テセントリクの注意を要する副作用

かすいたいきのうしょうがい

▶ 下垂体機能障害

下垂体に炎症が起こり、下垂体の機能が低下する病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 頭痛
- 尿の量や回数が増える
- 物が見えにくい
- 口が渇く
- 乳汁分泌
- たくさんの水分が欲しくなる
- 体がだるい、疲れやすい
- 食欲がない
- 月経がない

ずいまくえん せきずいえん

▶ 脳炎、髄膜炎、脊髄炎

脳や髄膜(脳や脊髄を覆っている膜)、脊髄に炎症が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 両足のしびれ、両足が動かしづらい
- 頭痛
- 便・尿が出にくい、便・尿失禁
- 吐き気、嘔吐
- 腰・背中痛み
- 意識がはっきりしない
- うなじがこわばり固くなって、首を前に曲げにくい

MEMO

▶ 神経障害

全身の筋肉を動かす運動神経や皮膚の感覚などを伝える感覚神経、内臓の働きを調節する自律神経などの働きが悪くなる病気です。症状がひどくなると食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸が苦しくなることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 手足がピリピリしびれる、ジンジン痛む
- 手足の感覚がなくなる
- 手足に力が入らない
- 物がつかみづらい
- 歩行時につまづく
- 手足の皮膚が冷たい

▶ じゅうしょうきんむりよくしょう重症筋無力症

神経から筋肉にうまく信号が伝わらなくなるために、筋力の低下が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- まぶたが下がったまま戻らない
- 物が二重に見える
- 手足に力が入らない
- 食べ物がうまく飲み込めない
- 息苦しい

▶ 重度の皮膚障害

発熱と広い範囲にわたる皮膚や粘膜の障害が起こることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- のどが痛む
- 目の充血
- 水ぶくれ
- まぶたの腫れ
- 皮膚・粘膜のはがれ・ただれ
- 関節(手足の甲、ひじ、ひざなど)部分もしくは広範囲にわたり皮膚が赤くなる

▶ 腎機能障害

腎臓に炎症が起こり、腎臓の機能が低下する病気です。血液検査ではクレアチニンなどの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 体がだるい
- 発疹
- 便が泥状か水のようにになっている
- 関節痛
- 尿の量が減る・増える
- 吐き気、嘔吐
- むくみ
- 食欲がない

MEMO

おうもんきんゆうかいしょう

▶ 筋炎、横紋筋融解症

筋肉の細胞が壊れることにより、痛みを感じたり力が入らなくなる病気です。血液検査ではクレアチンキナーゼやミオグロビンの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 体がだるい
- 疲れやすい
- 食欲がない
- 体重が減る
- 筋肉痛
- 手足に力が入らない
- 息苦しい
- 尿が赤褐色になる

▶ 心筋炎

心臓の筋肉(心筋)に炎症が起こり、心臓の機能が低下する病気です。血液検査ではクレアチンキナーゼの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 胸の痛み
- 手足のむくみ
- 体がだるい、疲れやすい
- 動悸
- 息切れ、息苦しい

テセントリクの注意を要する副作用

けつきゅうどんしよくしやうこう ぐん

▶ 血球貪食症候群

免疫に関わる細胞が過剰に反応した状態が続くことで、血小板・赤血球・白血球などを食べてしまうような状態を引き起こし、さまざまな症状があらわれることがあります。急速に重症化した場合、命にかかわることもありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 発疹
- 体がだるい、疲れやすい
- 腹痛
- いつもより排便回数が多い
- お腹が張る
- 出血、血が止まりにくい
- けいれん
- 顔のむくみ
- 便が泥状か水のようになっている

MEMO

▶ 薬剤の注入に伴う反応

点滴中または投与後に、アレルギーのような症状があらわれることがあります。これらの症状は、1回目の投与時にあらわれることが多いですが、2回目以降にあらわれることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 吐き気、嘔吐
- 注射部位のほてり、痛み
- かゆみ
- 息切れ、息苦しい
- 発熱
- 発疹



▶ 発熱性好中球減少症

体に侵入してきた異物(細菌、ウイルスなど)から体を守っている白血球・好中球が減少し、 37.5°C 以上に発熱した状態を呼びます。テセントリクと他のお薬(アバスチン+パクリタキセル+カルボプラチン)を一緒に使った場合にあらわれることがあります。

参 考

注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状①： 全身、顔にみられるもの

	症 状	間質性肺疾患	肝機能障害、肝炎、 硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膵炎	1型糖尿病	内分泌機能障害
全身症状	頭痛						
	発熱	●	●				●
	意識がもうろうとする					●	
	けいれんが起きる						
	むくみ						
	体重増加						●
	体重減少						●
	体がだるい、疲れやすい		●	●		●	●
	ふるえ						●
	暑がり、汗を多くかく						●
	出血、血が止まりにくい						
	腰・背中痛み					●	
顔周りに出る症状	目の充血						●
	物が見えにくい						
	口が渇く			●		●	
	うなじがこわばり固くなって、 首を前に曲げにくい						

※テセントリクと他のお薬(アバスチン+パクリタキセル+カルボプラチン)を一緒に使った場合にあらわれることがあります。

脳炎、髄膜炎、脊髄炎	神経障害	重症筋無力症	重度の皮膚障害	腎機能障害	筋炎、横紋筋融解症	心筋炎	血球貪食症候群	薬剤の注入に伴う反応	発熱性好中球減少症 ^{**}
●									
●			●	●	●		●	●	●
●									
							●		
				●		●	●		
				●					
			●	●	●	●	●		
							●		
●									
			●						
		●							
●									

参 考

注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状②: 呼吸器、胃腸、手足、排泄でみられるもの

症 状	間質性肺疾患	肝機能障害、肝炎、 硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膵炎	1型糖尿病	内分泌機能障害
呼吸症状	咳が出る	●				
	息切れ、息苦しい	●				
	胸の痛み					
	動悸					●
胃腸症状	腹痛		●	●	●	
	吐き気、嘔吐		●		●	●
	食欲がない		●			●
手足に出る症状	手足やからだの一部の 感覚がなくなる					
	手足に力が入らない					
	両足のしびれ、 両足が動かしづらい					
	かゆみ、発疹、水ぶくれ		●			
排泄症状	尿が赤くなる		●			
	尿の量や回数が増える				●	
	便・尿が出にくい、便・尿失禁					
	排便回数が多くなる			●		●
	血便			●		
	便秘					●

※テセントリクと他のお薬(アバスタチン+パクリタキセル+カルボプラチン)を一緒に使った場合にあらわれることがあります。

脳炎、髄膜炎、脊髄炎	神経障害	重症筋無力症	重度の皮膚障害	腎機能障害	筋炎、横紋筋融解症	心筋炎	血球貪食症候群	薬剤の注入に伴う反応	発熱性好中球減少症 ^{**}
		●		●	●	●		●	
						●			
						●			
●				●	●		●	●	
	●								
	●	●			●				
●									
			●	●			●	●	
				●	●				
				●					
●				●					
				●					
				●					
				●			●		

副作用の重症化を防ぐために

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。副作用の重症化を防ぐためには、副作用に早めに気づき、対応することが重要です。副作用に早く気づくために、普段の体調をきちんと把握しておきましょう。

医師に気になる症状を伝える際には、普段の体調とどのくらい違うのか、その症状によって日常生活にどのくらい支障が出ているのかを話すと、症状の強さを上手に伝えることができます。

ダイアリーにご自身の日々の体調を記入することで、普段の状態やその変化がより把握しやすくなります。体調がいつもと違うと感じたときは、ダイアリーを活用しながら、医師、看護師、薬剤師に相談することで、重症化する前に副作用に気づくことができ、適切な対応を開始することができます。

テセントリクによる治療を行う前に
普段の体調をチェックしておきましょう。

例えば…

- 平熱
 - 体重
 - 視力
 - 1日の飲料水の量
 - 排便回数
 - 排尿回数
 - 呼吸器の症状(咳の回数や息苦しさ)
- など

体調の変化に気づけるよう、体調チェックシートも活用してください。冷蔵庫など、毎日目にする場所に貼って、注意が必要な症状を見逃さないようにしましょう。

<体調チェックシート>

冷蔵庫など、毎日目にする場所に貼ってください

1日に1度 テセントリクを使用されている方へ
体調チェックしてみませんか？

【医師】 静岡国立静岡がんセンター 化学療法センター部長 呼吸器科部長 村上 晴彦 先生
看護部 看護部長 横田 秀樹 先生
薬剤部 金子 美智子 先生

初回投与後から、投与が終わった後にもこれらの症状があらわれることがあります。
このような症状がみられた場合は、すぐに病院に連絡してください。

全身

- 38.0度以上の発熱がある
- 体がむくんでおり、皮膚のしわが見えなくなった
- 急に体重が増えた
- いつもより体がたたく、休んでも回復しない
- 皮膚が黄色くなった

頭

- 考えがまとまらず、意識がはっきりしない
- いつもの頭痛と比べてひどい痛みがある

目

- ものが二重に見える
- まぶたが下がったまま戻らない
- ものが見えにくい

のど

- のどが異常に湿き、たくさん水分が飲めなくなる
- 食べ物がうまく飲み込めない

胃腸

- 腹痛が生活の妨げになっている
- 吐き気が1日に3回以上ある、もしくは普段より吐き気を強く感じる
- 食欲が低下し、食事が減った
- 下痢が続き、普段より排便回数が多い
- 便に血が混じっている

胸

- 咳が増えたり、腫脹に影響がある
- 多くと息切れがする
- 心臓がドキドキしたり、鼓動がいつもより速い

膀胱

- 尿が急に赤くなった
- いつもより尿の量や回数が増えた
- 尿がでにくくなった

手足

- 手足にしびれがある
- 手足に力が入らない
- 手足がふるえる

いつもとどんなか違う…
気のせいかもしれないけど、なんだか違和感がある…
その小さな気づきで、副作用の早期発見につながる場合があります。
ここに書かれている以外の症状が気になる可能性もあります。
気になることがあれば医療スタッフにご相談ください。

上記の症状が認められた場合はこちらの電話に連絡をお願いします。

【中外製薬株式会社】
TEL 024-276-7900
2024年7月発行
TEC0249-02

【weby】マイカルテONC
日本の医療の記録にwebyの活用を促します。
詳細は、webyよりアクセスください。

【アプリに関するお問い合わせ先】
0120-095-635
受付時間：平日10:00～17:30
support@weby.jp

治療期間終了後の注意点

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。

治療が終わった後も「緊急連絡カード」を携帯し、体調不良などで医療機関を受診した際には、「テセントリクによる治療を受けていた」ことを必ず伝えるようにしてください。

<緊急連絡カード>

テセントリクの治療を受けた患者さんへ

このカードは、テセントリクの治療を受けた患者さんへの注意点をまとめています。常に携帯してください。
テセントリクの治療を受けた病院や主治医以外の治療を受ける場合は、このカードを必ずご提示ください。

緊急受診する場合の注意点

治療期間中、治療が終わった後に緊急受診しなければならない場合
に備えて、病院に連絡する際に何を伝えればよいか、どのよう
に受診するかを考えておきましょう。また、「緊急連絡カード」は治療
期間中、治療が終わった後も必ず携帯してください。

普段の生活に支障が出るほど体調が悪くなったときには、速やかに
医療機関に連絡してください。

◎連絡が必要な症状の一例

- 息切れ、息苦しい
- 38℃以上の発熱
- 経験がないほどの激しい腹痛
- 強いだるさを感じる
- 頭痛、痙攣^{けいれん}、意識障害
- 手足に力が入らない
- 激しい下痢（いつもより6回以上排便回数が増加）
- 口が渇く、たくさんの水分がほしくなる
- 動悸、胸が締めつけられるような痛み など

治療中の妊娠と授乳について

妊娠中にテセントリクを投与した場合、お腹の赤ちゃんに影響を与える可能性があります。そのため治療期間中だけでなく、治療が終わってから5ヵ月間は妊娠を避けてください。

妊娠していることが分かった場合は、主治医の先生に相談しましょう。また、授乳によりお薬の成分が赤ちゃんの体に入ってしまう可能性がありますので、治療中の授乳についても継続または中止を検討する必要があります。

治療を受けられる患者さん向けに、治療期間中の体調変化を記録するアプリがございますので、ご活用ください。



■ アプリ(WelbyマイカルテONC)に関するお問い合わせ先

登録方法、サービス内容など、ご不明な点はお気軽にご質問ください。スタッフがていねいに対応いたします。

 **0120-095-655**

受付時間：平日10:00～17:30

 **support@welby.jp**



運営会社 株式会社 Welby

テセントリクによる治療を受けられる患者さん向けwebサイトもありますので、ご活用ください。

URL : <https://pat.tecentriq.jp/>



監修 (承認適応順)

静岡県立静岡がんセンター

化学療法センター長、呼吸器内科医長 **村上 晴泰** 先生看護部 看護師長 **柳田 秀樹** 先生薬剤部 **金子 美智子** 先生

名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター

臨床研究戦略部 先端医療・臨床研究開発学分野 特任教授 **岩田 広治** 先生

愛知県がんセンター

看護部 **柴田 亜弥子** 先生薬剤部 **前田 章光** 先生

国立がん研究センター東病院

肝胆脾内科長 **池田 公史** 先生

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

 ロシュグループ